

# 公益社団法人 秋田県理学療法士会定款

## 第1章 総則

### (名称)

**第1条** この法人は、公益社団法人秋田県理学療法士会と称する。

### (事務所)

**第2条** この法人は、主たる事務所を秋田県秋田市に置く。

## 第2章 目的及び事業

### (目的)

**第3条** この法人は、理学療法士の人格、倫理及び学術機能を研鑽し、秋田県における理学療法の啓発及び普及を図るとともに、サービスの質の向上に係る調査研究を行い、以て県民の医療・保健・福祉の増進に寄与することを目的とする。

### (事業)

**第4条** この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 理学療法を通じ、県民の健康増進、疾病並びに障害の予防、高齢者及び障害者支援等に資する事業
  - (2) 理学療法に関する刊行物の発行及び調査研究事業
  - (3) 理学療法における学術及び科学技術の振興に資する講演会及び研修事業
  - (4) 県民のリハビリテーションに貢献するため関係団体と連絡し、協力する事業
  - (5) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項に定める事業はその地域を秋田県において行うものとする。

## 第3章 会員

### (法人の構成員)

**第5条** この法人に次の会員を置く。

- (1) 正会員 理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137）第3条の規定による理学療法士の免許を有する者であって、この法人の目的に賛同し、秋田県内に勤務、又は在住しているもの
  - (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、事業の推進を援助するために入会した個人または団体
  - (3) 名誉会員 この法人の正会員であった者で、この法人に多大の功労のあったものとして理事会の推薦を受け、総会の承認を受けたもの
- 2 前項の会員のうち正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社

員とする。

#### (会員の資格取得)

**第6条** この法人の正会員または賛助会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

#### (経費の負担)

**第7条** 正会員は、この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、総会において別に定める会費を支払う義務を負う。

2 賛助会員は、この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、総会において別に定める会費を支払う義務を負う。

3 名誉会員は、会費等の納入を免除する。

#### (任意退会)

**第8条** 正会員又は賛助会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

#### (除名)

**第9条** 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。この場合、その会員に対し、総会の1週間前までにその旨を通知し、総会において、決議の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

#### (会員資格の喪失)

**第10条** 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第7条の支払義務を、定款細則第3条第4項に定める期限までに履行しなかったとき。
- (2) 総正会員が同意したとき。
- (3) 当該会員が死亡し、団体においては解散したとき。
- (4) 正会員及び名誉会員において、理学療法士の免許を取り消されたとき。

### 第4章 総会

#### (構成)

**第11条** 総会はすべての正会員をもって構成する。

2 前項の総会をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員総会とする。

**(権限)**

**第12条** 総会は次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) 理事会において総会に付議した事項
- (8) その他総会で決議するものとして法令またはこの定款で定められた事項

**(開催)**

**第13条** 総会は、定時総会として毎事業年度終了後3カ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

**(招集)**

**第14条** 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。
- 3 前項による請求があったときには、会長は請求があった日から6週間以内の日を開催日とする総会招集の通知を発しなければならない。

**(議長)**

**第15条** 総会の議長は、当該総会において出席した正会員の中から選出する。

2 議長の選出方法については、総会決議により別に定める総会運営規程による。

**(議決権)**

**第16条** 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

**(定足数)**

**第17条** 総会は総正会員の過半数の出席がなければ開会することができない。

### (決議)

- 第18条** 総会の決議は、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。
    - (1) 会員の除名
    - (2) 監事の解任
    - (3) 定款の変更
    - (4) 解散
    - (5) その他法令で定められた事項
  - 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第21条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

### (書面議決等)

- 第19条** 総会に出席できない正会員は、予め通知された事項について書面をもって議決し、又は他の正会員を代理人として議決権の行使を委任することができる。
- 2 前項の場合における前2条の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。
  - 3 前2項に関し必要な事項は、総会の決議により別に定める総会議事運営規程による。

### (議事録)

- 第20条** 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 議長、代表理事及び出席した正会員又は理事の中から選任された議事録署名人は記名押印しなければならない。

## 第5章 役員

### (役員を設置)

- 第21条** この法人に、次の役員を置く。
- (1) 理事 8名以上12名以内
  - (2) 監事 2名以内
- 2 理事のうち1名を会長、2名を副会長とし、そのほかの理事を業務理事とする。
  - 3 前項の会長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とし、副会長及び業務理事をもって同法91条第1項第2号の業務執行理事とする。

#### (役員を選任)

**第22条** 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

#### (理事の職務及び権限)

**第23条** 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

3 副会長は、会長を補佐し、この法人の業務を執行する。

4 業務理事は、会長及び副会長を補佐し、この法人の業務を執行する。

5 前3項の業務執行に係る権限は、理事会が別に定める職務権限規程による。

6 会長、副会長及び業務理事は3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

#### (監事の職務及び権限)

**第24条** 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

#### (役員任期)

**第25条** 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとし、再任は妨げない。

2 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとし、再任は妨げない。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4 理事又は監事は、第21条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

#### (役員解任)

**第26条** 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

#### (報酬等)

**第27条** 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事には報酬等を支給することができる。

- 2 理事及び監事には、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の決議により別に定める役員の報酬及び費用に関する規程による。

#### (相談役)

**第28条** この法人に、任意の機関として、若干名の相談役を置くことができる。

- 2 相談役は、理事会において選任し、任期は役員に準ずる。
- 3 相談役は、会長の諮問に応え、本会の運営に協力する。
- 4 相談役の取り扱いについてのその他必要事項は、これを別に定める。

### 第6章 理事会

#### (構成)

**第29条** この法人に理事会を置く。

- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

#### (権限)

**第30条** 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長及び副会長の選定及び解職

#### (招集)

**第31条** 理事会は、会長が招集する。

- 2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

#### (決議)

**第32条** 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

#### (議長)

**第33条** 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

(議事録)

**第34条** 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

**第7章 資産及び会計**

(資産の構成)

**第35条** この法人の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 財産目録に記載された財産
- (2) 会費
- (3) 寄付金品
- (4) 事業に伴う収入
- (5) 資産から生ずる収入
- (6) その他の収入

(資産の管理)

**第36条** この法人の資産は、会長が管理し、その方法は、理事会の決議により定める。

(事業年度)

**第37条** この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

**第38条** この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

**第39条** この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）

- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時総会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。
- 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款、会員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
  - (1) 監査報告
  - (2) 理事及び監事の名簿
  - (3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類
  - (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

#### （公益目的取得財産残額の算定）

**第40条** 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第3項第4号の書類に記載するものとする。

#### （会計原則）

**第41条** この法人の会計は、一般に公正妥当と認められる公益法人の会計の慣行に従うものとする。

### 第8章 事務局

#### （事務局）

**第42条** この法人の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局に、事務局長その他の職員を置く。
- 3 事務局長は理事会の承認を得て会長が任免し、その他の職員は会長が任免する。
- 4 事務局に関し必要な事項は、会長が理事会の決議を経て別に定める。

#### （備付け帳簿及び書類）

**第43条** 事務局には、法令に定める帳簿及び関係書類を備え置かなければならない。

### 第9章 定款の変更及び解散

#### （定款の変更）

**第44条** この定款は、総会の決議によって変更することができる。



### (解散)

**第45条** この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

### (公益認定の取消し等に伴う贈与)

**第46条** この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

### (残余財産の帰属)

**第47条** この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第10章 公告の方法

### (公告の方法)

**第48条** この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

## 附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 この法人の最初の会長は高橋仁美とする。
- 3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条1項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第37条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。